

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 5月 29日

事業所名 児童発達支援 ぱれっと城間

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	1	学習室、プレイルーム分けて活動している	スペースは基準を満たしているが、場合によっては、戸外での活動も工夫を行う。
	2	職員の配置数は適切である	6	1	配置基準人員は満たしているが、より手厚い支援ができるよう職員間の連携や役割分担などを常に見直している。	基準人員を上回る配置はできているが、個別サポートが必要な児童にも十分な支援ができるよう体制を整え、職員の個々のスキル向上にも努めていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	1	階段には、手すり・滑り止めを設置。 室内は活動・学習のスペースを分け、スケジュールボードを利用したり、絵カード等を使用して視覚支援を実施。その都度、環境設定している。	賃貸物件のため、エレベーターの設置などは難しいが、階段の滑り止め等が古くなっている箇所がないか常に確認する。 室内の環境設定等も改めて見直し改善に取り組む。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0		
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	1		活動前に、話し合いをし個々の個別指導計画をしっかりと把握し取り組んでいく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	1	自社HPIにて結果を公表している。	外部への周知だけではなく、事業所内での共有もしっかり取り組んでいく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	3		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	1	毎月1回以上研修を受けている。	職員のスキルアップ向上のため、研修を受講できるように努めていく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5	2		作成した計画についてニーズや課題をしっかりと共有し職員の計画書に対する理解を深めるよう努める。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1	会社にて統一のツールを使用している。	再度、職員に対しての周知徹底に努める。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	1		日々の活動等について支援計画書に沿った療育内容になっているかを再度見直していき、職員はもちろん新入社員にも理解を深めていくように努める。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1	毎日、計画書作成、職員への共有している	他事業所との意見交換も積極的に行い、活動内容は固定化にならないように取り組んでいく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0		
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	0			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	ホワイトボードにてスケジュールを管理している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	0	職員通し気づいた点を話し合い情報共有している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0		
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	0		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	-	-		医療ケア児、重症心身障害児の利用はない
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	-	-		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	2		移行支援については、関係機関と相互理解を図りつつ、事業所内でも情報共有、職員理解に努める。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	3		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	3		次年度より積極的に研修に参加していく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	5	公園や児童センターを利用する際は一緒に活動している	今後は、交流できる機会などを持てるように企画調整に努めていく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	5		今年度は通知がなかったが、次年度は協議会の案内がきているので、積極的に参加できるように努めていく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0		
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5	2	他事業所と連携し保育所等訪問を取り入れている。事業所内相談等で家庭とも連携できるよう努めている	家庭連携、事業所内相談の支援を日々行っている。送迎時に利用の様子や相談等の共有を行っている。事業所でも開催できるように職員のスキルアップに努めていく。	
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	1			
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	1	家庭連携、事業所内相談を行っている。送迎時に利用の様子や相談等の共有を行っている。	保護者からの相談に対して、助言や支援のスキルアップ向上に努める。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7		近隣の公民館を借り、保護者と利用児で夏まつりを実施。	次年度も保護者会等の行事開催に向けて内容の振り返り、より多く機会が持てるように取り組んでいく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		毎月の様子を記載した通信だよりを発行	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	1	ハロウィン、クリスマスなど地域の企業と交流している。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	1		各種マニュアルは、策定しているが保護者に向けての周知、職員への周知対応をしっかりと行えるように努めている。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	1		定期的な訓練の実施、保護者との災害時の連携などにさらに取り組んでいく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7		てんかんの疑いの児についての対応は職員共有している(救急搬送など)	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		事業所内で情報共有している。	次年度より、他事業所とも事例の共有を行い全職員で再発防止に努める。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		外部受講、年2回事業所内研修に参加、記録の共有を行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7		重要説明事項において承諾を得ている	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。